

本日の内容項目《個性の伸長》 (A)・B・C・D (○で囲む)

A：主として自分自身に関する事

B：主として人との関わりに関する事

C：主として集団や社会との関わりに関する事

D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

本日の主題名《自分のいいところ》

【1】主題解釈：この主題を学ぶ意義を捉えよう。

(1) まず「内容項目」について、自分自身の捉えを書き出してみましょう。

		自分なりに考えて（自己理解）	他の先生方と話して（他者理解）
価値理解	① この内容項目の大切さ ※それはなぜ大切なのでしょう	- 自分のいいところがみつかるとうれしくなり、将来に生かせる。 - 友達に自分のいいところをみつけてもらうことで自分のいいところ分かる。	- いいところがみつかることによって自分の特技やよさを生かせる道を見いだすことができる。 - 自分のよさを伸ばすことにつながる。
人間理解（誰にでもある弱さ）	② この内容項目の難しさ ※いつでもできますか。誰に対してもできますか。	自分のいいところに気付くことは難しい。	- 自分のことを客観視できないため、自分のいいところに気付くにくい。 - 他者からの評価によってしか自分のよさに気付かないこともある。
人間理解（弱さを越えてよりよく生きようとする強さ）深まった価値理解（新たな気づき）	③ それでもなおの大切さ ※難しさを越えて大切にしたいのはなぜでしょう。	自分のいいところがみつかることは、将来にわたって自己実現を果たせるようにするために大切なことである。	いいところがみつかることによって自分が進みたい道を探っていくことができる。将来への選択肢が広がる。

(2) 学習指導要領を見てみましょう。

④学習指導要領の該当ページに書かれている「大切さ」や「難しさ」、「指導の要点」など。

この時期の児童は発達段階から、自分自身を客観視することが十分にできるとは言えない。児童が自分の特徴に気付く契機となるのは、他者からの評価によることがほとんどである。

指導にあたっては、児童の長所を積極的に認め、励まし、児童自身が具体的な場面で芽生えてくる自分の長所のできるだけ多く気づき、実感していけるようにすることが、よさを伸ばすことにつながっていく。

(3) 「本日の主題」に焦点化して考えてみましょう。

⑤本日の主題はなぜ、児童生徒にとって大切なのだと思いますか。

自分のいいところを見つけることは、児童が自己肯定感を高め、将来にわたって自分のよさを発揮していくために大切なことであるから。

⑥ ⑤に照らして、本学級の児童生徒は、どのような実態にありますか。（できているところ、まだのところ）

道徳アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思う」に肯定的回答をした児童の割合は、4月は85%、12月は92%であり、自分のよいところを認識できている児童は増えつつある。しかし、この時期の児童は自分のいいところを客観視しにくいため、自分のよいところを自分で見つけるのは難しい。そこで、帰りの会の「きらきらさん紹介」で友達からいいところを伝えてもらうことで、自分のいいところに気付くよう取り組んでいる。

どんな指導の方法で授業するか、考えましょう。まず「教材」を見てみましょう。

【2】：教材のどこを用いて授業を作るのか、考えよう。

本日の教材名《いいところみつけた》(小)・中 第《2》学年 出版社・教科書名《日本文教出版》

⑦登場人物の役割を捉えよう（主題に照らして）

※主人公はどんなことに悩んでいますか。また他の人物は主人公にとってどのような位置にいますか。

- ・主人公のりえは、あまり褒められたことがなく目立った取り柄がない。
- ・弟は運動が得意でみんなから「元気だね」と褒められる。
- ・しょうたくんは掃除に遅れたりえに対して怒っている。→りえは悲しい。
- ・先生はりえが低学年の子に優しくしていることを、いいところだと褒めてくれた。→りえはとても嬉しい。
- ・雨の日、1年生の子を手助けする。
- ・次の日の休み時間、1年生が転んでけがをしたときに、保健室へつれて行った。

⑧主人公の悩み・葛藤・迷いなどの「難しさ」の部分はどこでしょうか。また、「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったりする部分はどこでしょうか。

- ・おとなしくて、あまり褒められたことがない。
- ・ころんで泣いている1年生がいるが、休み時間が終わるチャイムが鳴り、みんなが教室に戻っていく場面で
- ・「だいじょうぶだよ。ほけん室にいっしょに行こうね。」と声をかけた。
- ・あわてて教室に戻ったが、掃除をさぼったように思われてしまい、悲しくなった。
- ・掃除のあと、先生に「小さい子のめんどろをみることができるのは、りえさんのいいところですね。」と言われ、うれしくなった。

【3】授業のねらいとゴールの姿、それを導く発問と板書を考えよう。

⑨ねらい：「〇〇する活動を通して、～～～しようとする道徳的な判断力（道徳的心情、実践意欲と態度）を高める」	ねらい：「自分や友達のよいところについて考える活動を通して、よいところが見つかるとうれしい気持ちになることに気づき、自分のよいところを見つけていこうとする態度を育てる。」
⑩ゴールの姿：⑨のねらいが達成されたとして、授業の最後には、例えばどのような言葉が児童生徒から出てくるとよいでしょう。複数考えてみましょう。	「みんな、いいところがあるんだね。」 「いいところがみつかるとうれしいね。」 「これからもいいところをみつけていこう」
⑪そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「悩みや葛藤など」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。	「1年生に優しくしたのにしょうたくんに怒られちゃったね。りえさん、悪いことをしたのかな。」 発言後、「そういう気持ち、分かるねえ」と共感を入れると、子どもは安心する。
⑫そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったり」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。	「先生の言葉を聞いてりえさんはどんな気持ちになったでしょう。」 発言後、「なるほど、そういう考え方が大切なんだね」と共感すると、子どもは今後の生き方にしっかり見通しを持つ。

※上記をもとに、思考を促す発問計画、板書計画を作成していきましょう！

（令和4（2022）年度改訂版 宮里智恵作成を参照）